

交通事故に気をつけて

副校長 細井宏一

トワイライトオン16運動

アイコンタクト運動

この2つ、何の運動か、皆様、おわかりになりますでしょうか。実は、警視庁交通部が掲げているキャッチフレーズです。「トワイライトオン16運動」とは、日没より早めの16時になったら前照灯を点灯し、夕暮れの交通事故を防止しましょう！ということ。「アイコンタクト運動」は、スポーツのような感じがしますが、正確には「交差点アイコンタクト運動」ということで、交差点を通行する際には、歩行者とドライバーが視線を合わせて（アイコンタクト）安全を確認してから通行しましょう！ということです。

一昨年度、石神井警察に、年度始めのご挨拶に伺った際、警察の方が交通安全で子供たちに伝えたいこととして教えてくださったのがこの標語でした。

「トワイライトオン16運動」は聞いてすぐにイメージがつかいましたが、「アイコンタクト運動」は「どうして交通安全でアイコンタクトなの？」と感じました。説明をしてもらって「なるほど」と思いました。確かに、自動車を運転していて、交差点を曲がろうとするときには、周りの車の運転手の表情や歩行者の様子を見て確認してから曲がります。子どもの場合には、そのようなことはできるのか考えてもいませんでした。確かにそのようなことができれば、子ども自身も気をつけますし、運転手の方も、子どもの存在に意識を向けるのだらうと思います。

また、警察の方から、もう一つ意外なデータを教わりました。それは、交通事故は家から遠い場所よりは、家の近くの道・場所で発生している件数の方が多いということです。これは、自宅近くの道はいつも通っているので、「きっと車はこないだろう」と油断して、注意を怠ってしまいがちで、そのために飛び出して事故になってしまうことがあるということでした。

インターネットで調べると、事故にあった子供たちのうち、小中学生の約7割が「自転車運転中」「歩行中」だったそうで、その要因としては、

- ・信号のない交差点での安全確認を怠ったため
- ・横断歩道以外の場所を横断したため
- ・道路に飛び出したため

が大きな特徴としてあげられるとのことでした。

本校では、毎年1年生と国際学級児童を対象に、登下校時（歩行時）に気をつける点を中心に交通安全教室をしていますが、小学2年生から6年生の皆さんも交通安全は大切です。特に、自転車に乗れるようになってくると、行動範囲も広がって、気をつけるべきことも増えます。

「トワイライト16」「交差点アイコンタクト」「家の近くの方が油断しやすく危ない」などについて、機会がありましたらご家庭でも話題にしていただければ幸いです。子供たちが交通事故に遭わないよう願ってやみません。